

# つどいの広場のネットワーク



広々とした保健センターの和室がひろばの拠点です。

このコーナーでは「つどいの広場」事業を連載します。「つどいの広場」事業は、親子が気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを目的としています。

「つどいの広場」事業の概要については <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/kosodate.html> をご参照ください。



## たつの市保健センターが拠点

たつの市は、国宝で有名な姫路城のある姫路市から北西に10km奥に入った静かな城下町です。町の西側は旧市街で格子戸の目立つ町並みですが、東側は新しく開けた新市街となっており、阪神方面に通勤する新住民の多い地域です。

牛建文彦、基子ご夫妻は、こうした地域の事情がよくわからない新住民を対象に、地域の少子高齢化対策をかね、平成8年にエンゼル部会を起ち上げて子育て支援に乗り出し、平成15年にフレンズ部会を起ち上げ、高齢者支援に乗り出しました。

「何度も行政に働きかけ、子育て施設運営のための助成をお願いしましたが、有料で実施することに難色を示され、最後は自腹をきってエンゼル部会を起ち上げました」とエンゼル部会担当の基子さんは当時を振り返ります。今でこそ、このような子育て

## 子育て支援と高齢者支援の二本柱で地域に貢献 特定非営利活動法人ピア・しんぐう（兵庫県たつの市）

子育て支援団体は多くなりましたが、高齢者支援をかねている団体はあまりありません。ピア・しんぐうは、全国でも珍しく、夫婦とその仲間達で運営する子育て支援事業と高齢者支援事業を展開しています。

団体は珍しくありませんが、発足当時は相当なご苦労があったようです。

牛建さんたちの地道な活動が評価され、現在はたつの市から平成18年度より、3年間続けて「市のつどいの広場事業」として委託を受け、活動は本格的な広がりを見せています。

「私どもの特徴は、運営スタッフがそれぞれ元小学校教諭、看護師、栄養士や保育士などの専門的な知識を持っている方が多く、人材面で手厚いケアができるという点です。遠方からこられる方もいるほどです」と基子さんは胸を張ります。

取材日に来ていたお母さんたちにお話を伺うと、「こういう施設はありがたいですね。いつでも自由に小さな子どもを連れて行ける場所が少ないので



運営スタッフ（左の二人が牛建夫妻）。

目次

- ◆つどいの広場ネットワーク ..... 2
- ◆「長寿・子育て・障害者基金」  
助成事業の継続状況及び波及効果等 ..... 4
- ◆普及・発展した事業の紹介 ..... 10
  - ①効果的な家族支援のための、ファシリテーターの育成および家族支援マニュアル作成事業
  - ②医療的介助を要する重度障害者の自立支援事業
  - ③高学年障害児童の家族支援とインクルージョン推進事業
  - ④ふじみ子育てネットワーク「つどいのひろば」事業
- ◆平成20年度「長寿・子育て・障害者基金」事業報告会 ..... 19
- ◆スポットライト ..... 27  
平成20年12月からの公益法人制度改革
- ◆福祉活動最前線 ..... 28  
高齢者共同住宅の現在
- ◆チャレンジレポート ..... 34
  - ・美容セラピー推進会
  - ・特定非営利活動法人山科醍醐こどもひろば
  - ・特定非営利活動法人ふれあい囲碁ネットワーク大分
- ◆NPOゼミナール ..... 40  
NPO立ち上げから運営までの基礎知識 — NPOの会計 —
- ◆NPO自治体協働事業レポート ..... 44  
交流と安心のある住まい環境づくり事業
- ◆福祉活動TIPS ..... 46  
ふれあい囲碁
- ◆再録 メイコのいきいきモーニング .. 48
- ◆東西南北 ..... 50
- ◆福祉関係シンボルマーク ..... 51  
視覚障害者の国際シンボルマーク

「WAM(ワム)」は、福祉(Welfare)と(And)医療(Medical service)の頭文字をとって名づけられた、独立行政法人福祉医療機構の略称です。



高齢者支援にも乗りだす

高齢者支援を目的にしたフレンズ部会の担当は文彦氏です。

「私は、元はたつの市(合併前の旧新宮町)の職員で、地域とのかかわりは深かったのです。たつの市でも他の地域と同様、高齢化が進み、地域との連帯感も失われていると感じていました。そこで、任期より2年早くリタイアして、何か地域のためになることはないかとはじめたのがフレンズ部会でした」と文彦氏は話します。

助かります」。

「たつの市は初めて来ましたので、こういう場所で情報を集められて便利です」とと好意的な意見が目立ちました。

彦氏は目的を話します。

役所時代に築いた持ち前の行政手腕を生かし、ピア・しんぐうをあっという間にNPO法人化し、助成金などの情報も夫婦で集め、団体の基礎を作りました。

事務所は元郊外型全国的大型店舗跡を一部再利用し、そこは同時に、高齢者のたまり場的な機能を果たし、近所の方々が気軽に寄れる全国でも珍しい高齢者の憩いの場所となつていきます。

この憩いの場は、ここに集まる人たちの作った農作物や民芸品などの直売場をかねており、町おこしの側面も担っています。



ピア・しんぐうの事務所は元全国の書籍チェーン店の跡にあります。

「高齢者は、年齢とともに外に出歩かなくなり、家に閉じこもると、いわゆる認知症になりやすいわけです。高齢者が気軽に立ち寄れる場所を作り、毎日いろんな人と言葉を交わすことで生活に刺激を与えます。そんな場所になってくれることを願っています」と文彦氏。

地域の子育てと高齢者支援に力を注ぐ牛建夫妻とそのスタッフの人達は地域にすっかり溶け込み、行政もその活動に関心を寄せる存在になっていきます。夫婦で取り組む全国でも珍しいNPOの今後の活動が期待されます。

取材協力

特定非営利活動法人ピア・しんぐう

〒679-4315  
兵庫県たつの市新宮町井野原481-1  
TEL&FAX. 0791-75-3889  
<http://www2.memenet.or.jp/pia-shinguu/index.html>